

## 道路・河川・鉄道交通を有機的に繋ぐ道の駅の基本構想

### — 一関市東山地区狛鼻溪を対象として —

岩手大学 学生員 ○泉山 翔平  
岩手大学 フェロー 安藤 昭  
岩手大学 正会員 赤谷 隆一  
岩手大学 正会員 南 正昭

#### 1. はじめに

現在我が国に既存する道の駅は、平成 17 年 第 21 回登録の時点で 830 箇所となり、平成 5 年 第 1 回登録時の 103 箇所比べて大幅に増加している。それに伴い、道の駅が道路と河川の接点や道路と鉄道の接点などの人や物、交通の流れの交差する地点に設置されることも多くなり、本来持つ道の駅の機能に加え、道の駅のあり方は多様化を示している。

そこで本研究は、日本百景・名勝 狛鼻溪で知られる一関市東山町長坂地区・主要地方道一関大東線・北上川水系砂鉄川・JR 大船渡線 狛鼻溪駅を対象にして、道路・河川・鉄道の流れを道の駅を用い有機的に繋ぐこと、またエコミュージアムのコアミュージアムの機能を付加することを目的とする。

#### 2. 東山町の概要

一関市東山町は、年間 20 万人以上の観光客が訪れる狛鼻溪、日本唯一であるウミユリの萼の化石が出土した幽玄洞、宮沢賢治が技師として勤め、現在は石と賢治のミュージアムとして公開されている旧東北砕石所、菅原道真公の夫人の墓等が点在し、現地保存・現地展示されている。(図-1)



図-1 東山地区概略図

#### 3. 狛鼻溪の概要

歴史…大正 14 年 国の史蹟名勝天然記念物に指定。昭和 2 年 日本新百景選定で 17 位日本百景に入選。

地形…約 100m の断崖が約 2km 続く渓谷。

東山町観光の約 9 割を狛鼻溪が占め、春は藤の花、夏は新緑・涼納、秋は紅葉として、観光客を集めている。

#### 4. 狛鼻溪周辺の現状

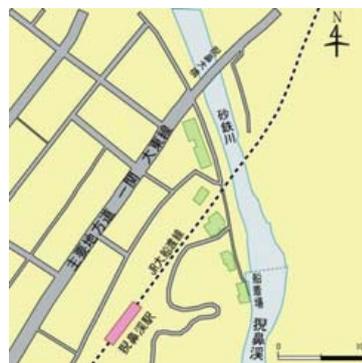


図-2 狛鼻溪周辺概略図

東山町長坂地区は主要地方道・鉄道路線・河川が重なり合う地形である。(図-2)この 3 つの現状を以下に示す。

##### ① 河川交通…狛鼻溪舟下り

「狛鼻溪の概要」で示した通りである。所要時間は、舟下り往復約 90 分であり、

船数…23 隻、定員…35～70 人、船頭人数…23 人、運行…夏季 9 時～17 時、冬季 9 時～15 時毎正時である。

## ② 道路交通…主要地方道一関大東線

表－1 東山町長坂での車種交通量 大型車混入率

	H17年度		H11年度	
	平日	休日	平日	休日
交通量[台/24h]	8,684	6,554	8,558	6,610
乗用車類	乗用車	5,958	5,423	5,542
	バス	86	116	94
貨物車類	小型貨物車	1,825	861	1,980
	普通貨物車	815	154	942
重交通量(バス・普通貨物)	901	270	1,036	270
大型車混入率[%]	10.38	4.12	12.11	4.08

## ③ 鉄道交通…JR 大船渡線 狛鼻溪駅

歴史…1986 年 11/1 狛鼻溪請願駅開業。

開業位置…JR 陸中松川一柴宿駅(4.87Km)のほぼ中央で、狛鼻溪まで約 400mの場所に位置する。

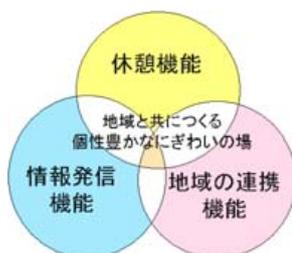
駅舎…長さ 75m(三両対応) 幅 2m 片側ホームと簡易待合所のみ無人駅である。

## 5. 道の駅の基本構想

### ① 道の駅の基本機能・特性の観点から

基本機能として3つ挙げられる。

休憩機能(駐車場やトイレ等の休憩に関する機能)、情報発信機能(道路情報や歴史・文化・観光等の情報発信す



る機能)、地域連携機能(地域内・地域間の連携や交流から地域づくりを促進させる機能)(図-3)この3つの基本機能に体験・歴史・文化型特性を持つ施設を加えた「道の駅」をコンセプトとして構想する。

体験型施設…民芸品の東山和紙・紫雲石硯を活用した「紙すき体験」「習字・水墨画の体験学習」の施設

歴史・文化型施設…名勝 狛鼻溪の歴史資料館、名物である狛鼻追分の伝承館、船頭体験を包括した狛鼻溪を体感できる施設

### ② エコミュージアムの機能付加としての観点から

東山町全体を「 Territories」と捉え、Territories内に存在する、

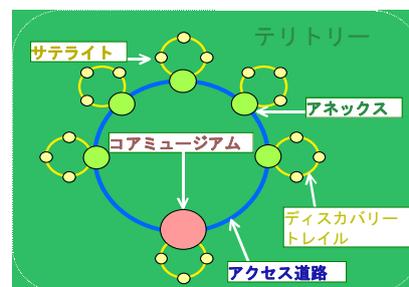


図-4 エコミュージアムのイメージ

自然遺産である狛鼻溪や幽玄洞や砂鉄川、文化遺産である菅公夫人の墓や二十五菩薩堂や磐井清水、産業遺産である旧東北砕石場やマテリアル工場や東山和紙を「サテライト」とする。

本部機能・案内機能を持つ「コアミュージアム」機能を道の駅に付加した施設を提案し、ゾーニングプランを以下のようにしめすとする。(図-5)



図-5 道の駅 ゾーニングプラン

## 6. 終わりに

道の駅の敷地の基本計画については、講演時に報告する。